

流域の現況と課題を踏まえた 今後の議論の進め方について

河川整備計画の内容（案）

第1章では支川を含めた流域全体を対象とし、
第2章以降は直轄管理区間を対象とする

第1章 流域の概要

第2章 河川の現状と課題

⇒今回議論して頂く内容

第3章 河川整備の目標に関する事項

第1節 河川整備の基本理念

第2節 計画対象区間

第3節 計画対象期間

→次ページに記載

第4節 洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する目標

第5節 河川の適切な利用及び流水の正常な機能の維持に関する目標

第6節 河川環境の整備と保全に関する目標

第4章 河川整備の実施に関する事項

第1節 河川の整備の実施に関する基本的事項

第2節 河川工事の目的、種類及び施工の場所並びに当該河川工事の施工により設置される河川管理施設の機能の概要

第3節 河川の維持の目的、種類及び施工の場所

◆計画対象区間及び期間◆

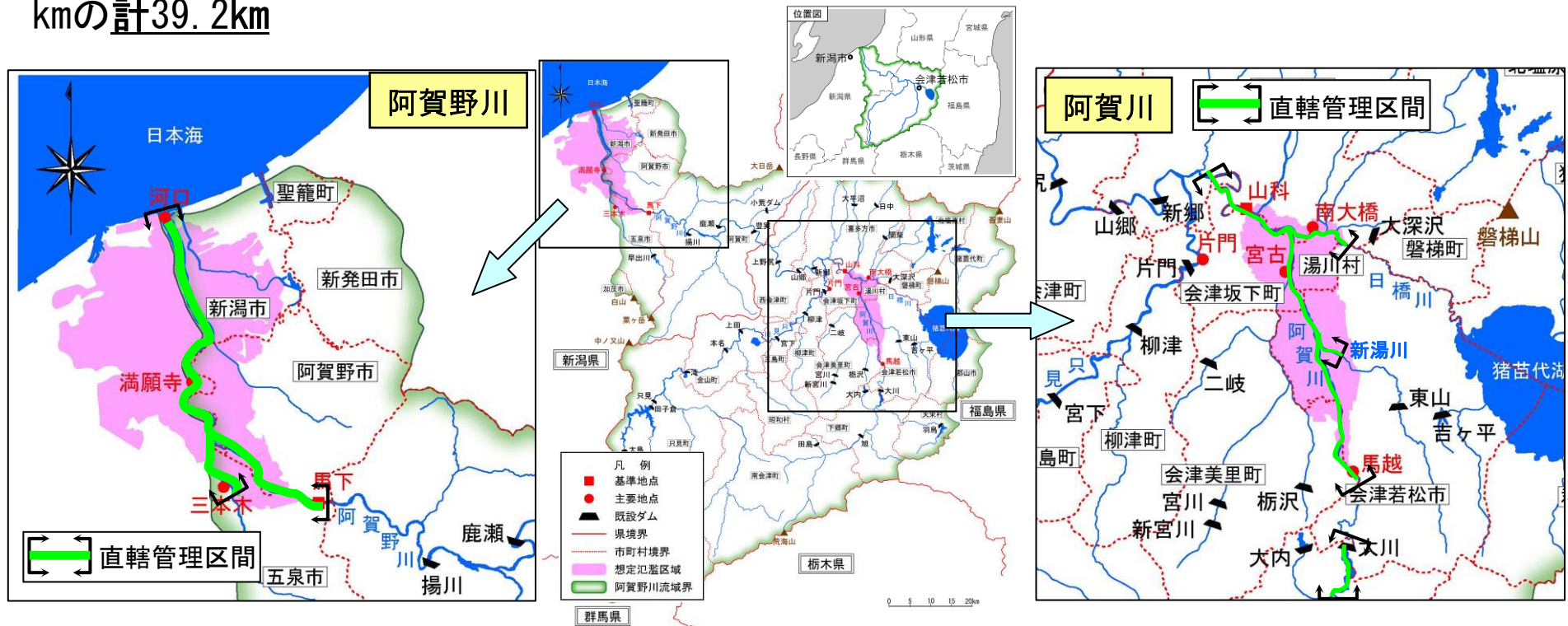
計画対象区間

【阿賀野川】

直轄管理区間である河口から馬下までの阿賀野川本川34.6km、支川の早出川4.6kmの計39.2km

【阿賀川】

直轄管理区間である長井橋下流～馬越堰堤までの阿賀川本川31.6km、支川の日橋川6.6km、湯川2.2km、及び大川ダム等11.55kmの計51.95km



計画対象期間

概ね30年間

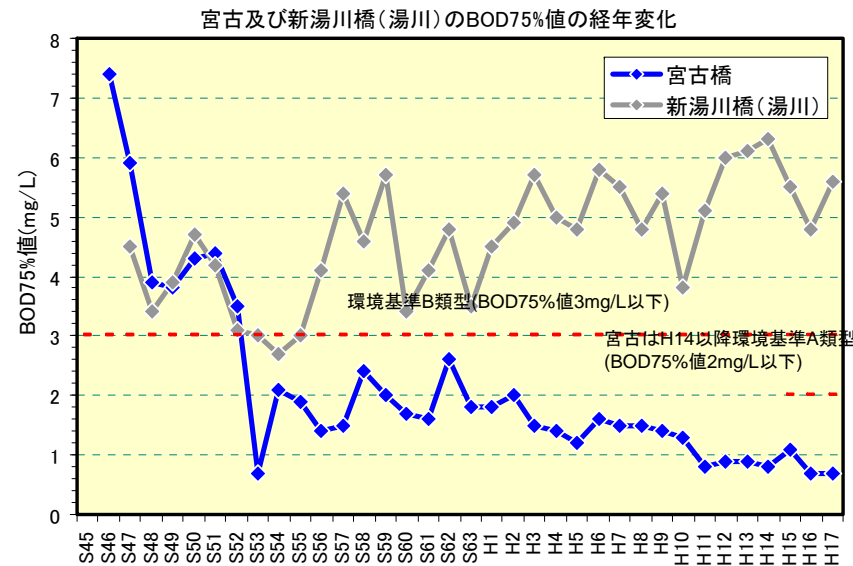
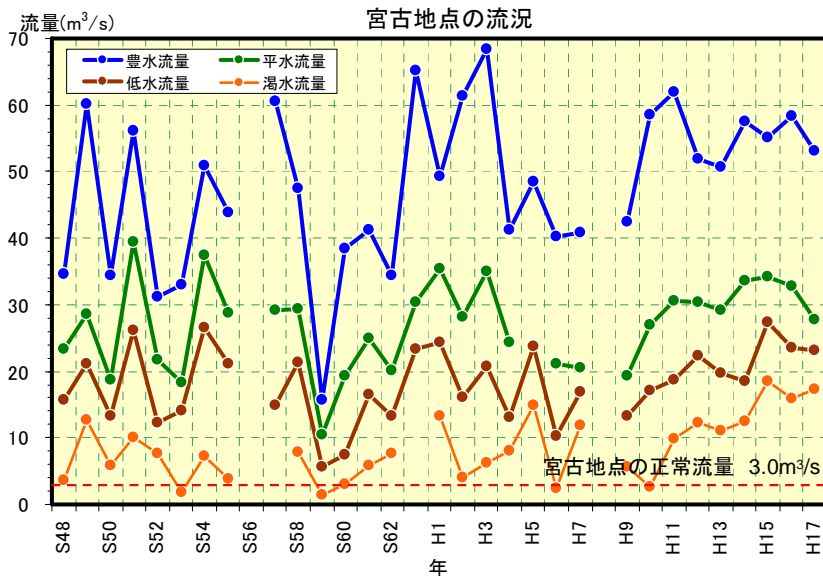
◆現状と課題(治水)◆

阿賀川

現 状		課 題
量の確保	一部の区間で堤防断面が不足	弱小堤の解消
	流下能力上のネック箇所の存在 (下流狭窄部区間、新湯川洗堰地点)	ネック部の解消
	川幅・低水路幅が狭く、樹木の繁茂により河積が不足する区間が存在	断面不足の解消
質の確保	浸透に対して弱い堤防の存在	堤防の強化
	河岸侵食・河床洗掘による危険箇所の存在	水衝部の強化
減災(ソフト)対策	氾濫被害の軽減のための水防、防災意識の希薄化	防災情報の高度化、避難体制の確立、防災拠点の活用
維持管理	河川管理施設の老朽化・機能維持 河道内樹木の樹林化	河川管理施設の維持 樹木管理

◆現状と課題(利水)◆

現 状		課 題
水利用	かんがい用水、水道用水、工業用水として利用	合理的な水利用の促進 関係機関との連携
	渇水の多発	関係機関との連携、大川ダムによる補給
水質	本川水質（BOD75%値）は環境基準を満足	支川における水質の改善
	新湯川の水質改善を図るべく、清流ルネッサンスIIとして対策を実施	



◆現状と課題（自然環境・空間利用）◆

阿賀川

現 状		課 題
自然環境	ワンド、細流・湧水群など多様な地形により、多様な動植物の生息・生育環境を形成	「阿賀川らしさ」を形成している環境の保全 多自然川づくり
	磐梯山など雄大な自然景観および歴史的資源に恵まれている	河川景観の維持
空間利用	カヌー、釣りや水遊びなど多くの人々が利用	河川空間利活用の促進 継続的な環境学習等、河川環境の理解の促進
	水辺の楽校などの整備が進むとともに、河川のイベントなどが開催されている。	
河川管理	ごみの不法投棄 地域住民による河川愛護活動 自治体、NPOによる清掃活動	地域住民との連携・協働した河川管理の推進
地域との連携	市民団体による川の指導者育成、河川環境保全活動	市民団体等との連携による河川愛護精神の高揚・強化

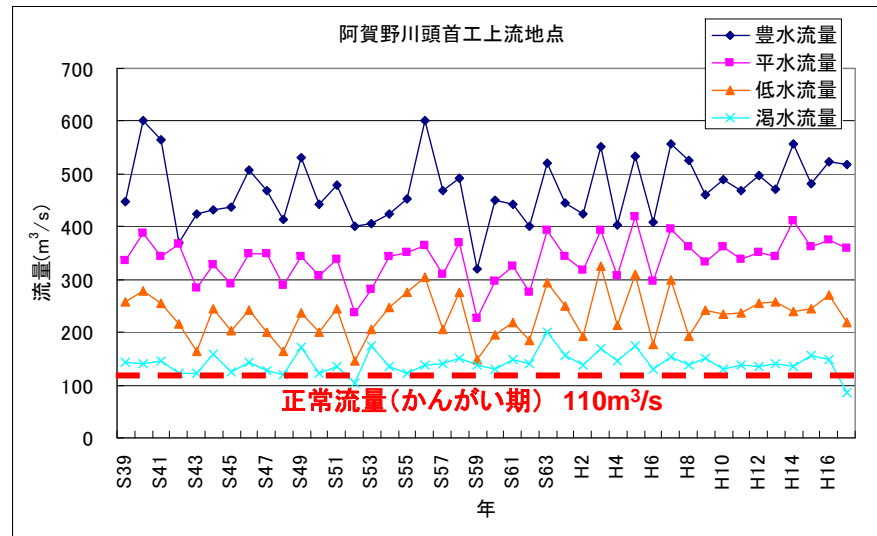
◆現状と課題(治水)◆

阿賀野川

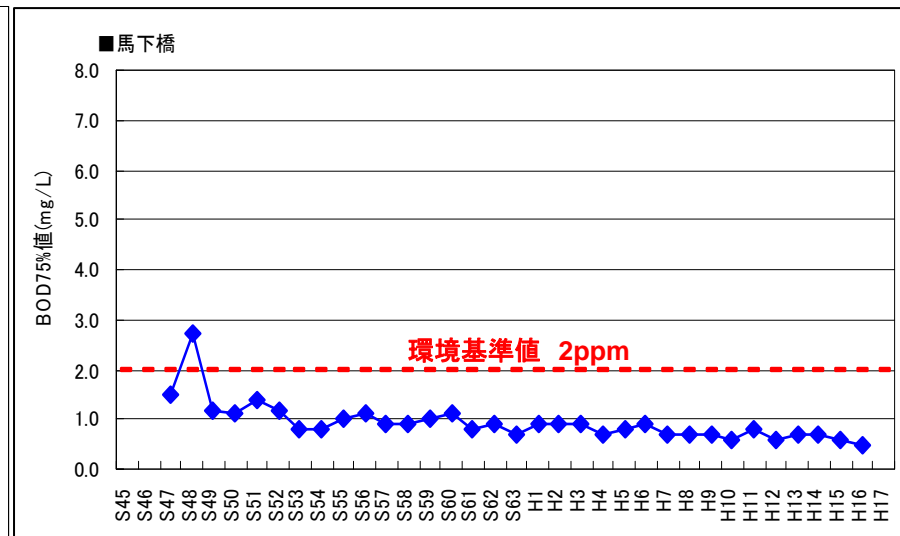
現 状		課 題
量の確保	無堤区間、堤防断面不足の存在	無堤区間、弱小堤の解消
	流下断面が小さいと共に、樹木の繁茂により河積が不足する区間の存在	断面不足の解消
	流下能力上のネック箇所の存在 (床固め、JR羽越本線橋梁)	ネック部の解消
	河口砂州の発達、形状変化による被災	河口部対策
質の確保	浸透、地震、漏水に対し弱い堤防の存在、地盤圧密沈下による堤防形状の変化、旧河道上の堤防	堤防の強化、地盤沈下対策
	水衝部や床固下流の局所洗堀による危険箇所の存在	水衝部の強化、河床の維持
減災(ソフト)対策	氾濫被害軽減のための水防、防災意識の希薄化	防災情報の高度化、避難体制の確立、防災拠点の活用
維持管理	河川管理施設の老朽化・機能維持 河道内樹木の樹林化 砂利採取の減少により土砂動態は小康状態	河川管理施設の維持、樹木管理 総合土砂管理

◆現状と課題(利水)◆

現 状		課 題
水利用	かんがい用水、水道用水、工業用水として利用	合理的な水利用の促進、関係機関との連携
	正常流量に対して不足は生じていない	現状の流況の維持
水質	水質は環境基準（BOD75%値）を満足 塩水の遡上	良好な水質の維持
	油脈からの油流出	



阿賀野川馬下頭首工上流地点における流況の経年変化



阿賀野川馬下橋地点における水質(BOD)の経年変化

◆現状と課題（自然環境・空間利用）◆

阿賀野川

現 状		課 題
自然環境	扇頂部から河口まで多様な動植物の生息・生育環境を形成 外来種の繁茂	豊かな自然環境の保全、多自然川づくり 拡大防止
	構造物により魚介類の行き来が困難	遡上降下の確保
	広大な水面を有した雄大な河川景観を形成	雄大な河川景観の維持
空間利用	散策、スポーツ、釣りや水遊び舟運など多くの人々が利用 水辺の楽校、水辺プラザ、桜堤の利活用公園等多くの河川占用	適正・多様な空間（水面）利活用の促進、環境学習の場としての活用 合法的占用
	河口部におけるプレジャーボート等の不法係留	積極的かつ秩序ある利活用の拡大
河川管理	ごみの不法投棄 地域住民による河川愛護活動 自治体、NPOによる清掃活動	地域住民との連携・協働した河川管理の推進